

働く母親が安心して住める社会とは・・・

「待機児童問題」から“女性の貧困”を考える

先進国の中でも群を抜いて高い女性の貧困率。
非正規雇用の7割が女性に偏っている現状。
女性が個人では生きにくい社会構造となっている日本で、
貧困を自分の問題として考えた時、「同一労働同一賃金」や「保育園の増設」は、女性の就労継続にとって必須ではないでしょうか。



待機児童をなくし、働く母親が安心して住めるような町にするには、どうしたらよいのでしょうか。保育園の専門家、猪熊弘子さんの話を聞きながら、参加者も一緒に考えてみませんか。



猪熊弘子 (いのくまひろこ) さん

ジャーナリスト。東京都市大学客員準教授。著書に「子育てという政治」（角川新書）「死を招いた保育」（ひとなる書房）ほか。

日時 2月25日（土）

午後3:00～5:00

場所 武蔵野商工会館4F
ゼロワンホール

吉祥寺駅中央口 徒歩3分

定員 60名（要事前申込・申込順）

託児 5名（2/14迄要予約・多数の場合抽選）※3か月～未就学児対象

お申込みは 武蔵野市立男女共同参画推進センターへ

Tel : 0422-37-3410 (9:00~22:00※木曜休館)

E-mail : danjo@city.musashino.lg.jp

※市のHPからもお申込みできます。

ここからお入りください⇒

